

水の安全保障特命委員会 第1回フォーラムに参加

研究第二部

研究員

宮原 誠二



再生水利用施設を視察

このフォーラムは、自由民主党・水の安全保障特命委員会が主催し、「チーム水・日本」の構想を全国に広めるとともに、国民の水への関心を向上させることを目的としています。今回は第1回の開催地として、下水処理水の再生水利用で注目を集めている香川県多度津町が選ばれ、去る2月2日に現地視察とフォーラムが開催されました。

フォーラムには、水の安全保障特命委員長の遠藤武彦氏（元農林水産大臣）をはじめ、竹村公太郎氏（日本水フォーラム事務局長）、吉村和就氏（グローバルウォーター・ジャパン代表）、山田正氏（中央大学理工学部教授）ら「水の安全保障戦略機構」のメンバーとともに、松井正樹国土交通省下水道部長や厚生労働省、農林水産省、環境省など関係省庁や関係機関からも多くの参加者が集いました。

まず一行は、小國宏多度津町長の案内により、再生水利用のメイン施設である高度処理施設を訪れ、そこから再生水の多目的な利用先として、水辺環境を創出した「せせらぎ水路」、再生水による地下水涵養が行われている「高水親水公園」、かつての蛍が飛び交う森を復活させようと整備した「八幡の森ほたるの里」などの視察を行いました。その後、フォーラムが開催



視察現場で地元住民と意見交換する参加メンバー



フォーラム会場には地元住民ら180名が集まった

される会場へ移動しました。そこでは既に地元住民ら約180名が集まり、フォーラムの開始を待っていました。会場はほぼ満員の状態で、多度津町住民の水への関心の高さがうかがえました。



「チーム水・日本」へ大きな期待

フォーラムでは、遠藤委員長が挨拶に立ち「世界の水問題はますます深刻化しており、その影響は日本にも必ず及んでくる。問題意識を共有することが大切である。」と活発な意見交換を呼びかけました。また、小國町長は「自然環境は子供たちに残せる財産であり、一度壊れた自然の再生には労力も資金も必要だが、その大切さはお金に換えられない。」と環境保護の大切さをアピールしました。

講演では、竹村氏が「水の安全保障戦略機構」の設立に至る経緯やその役割などを、吉村氏が水ビジネスの動向など世界の水をめぐる状況について、山田教授が海外における水環境再生の事例報告などを行いました。最後に行われた自由討議では、多度津町の方々からも費用負担や水利権の問題などが提起され、「チーム水・日本」への大きな期待が込められていることを感じました。

今回このフォーラムに参加したことで、多度津町における先進的な水再生・循環の様々な取り組みと、水に対する住民の方々への関心の高さと熱い思いを知ることができ、貴重な経験になりました。